

第14回 核データグループ会合議事録

日時； 昭和42年12月20 P.M. 1:00~5:00

場所； 原研本部第2会議室

出席者； 中島(竜), 大久保, 河原崎, 井出野, 岡本, 田中, 五十嵐,
神田, 浅見, 村田, 菊池, 中村, 八谷, 更田

配布資料；

- 1) 第13回議事録
- 2) Compyuter Index の Sorting Output の例,
- 3) "シグマ委員会の仕事と委員所属箇所の仕事との間の関係について(案)"
- 4) RAGYによるデータ解析の現状
- 5) 雑誌分担リスト

議長(当番)；中島(竜) 書記(当番)；更田(一部岡本)

議 事

I 前回議事録確認

- i) 整理班作業は12月12・13日に予定のところを12月18・19日に行つた。
- ii) 来年3月カナダでのEANDC会合でデータ・シートの収集作業について報告するということについて, 田中氏より公表した場合の obligation などについて質問があり, 中島(竜)氏より補足説明があつた。

II 報告事項

- (1) 運営委員会(11月16日)出席報告(中島(竜)氏)
(以下項目別に列挙する。内容は運営委員会議事録を参照されたい)
 - i) ENDF/Bについて報告があり, その検討に核データ・グループも協力してほしいとのことであつた。
 - ii) separated isotopesについて報告があつた。
 - iii) carbon の evaluation について報告があつた。
 - iv) 中性子断面積研究会が1968年2月15・16・17日に行われる。

v) データ・センターについての報告と今後の運営方針についての検討が行われ、サービスの強化についての意見などがあつた。

センター運営のために、現在の運営委員会と別に特別の委員会をもうけることはしないことになつた。

vi) 成果発表に関連し「シグマ委員会の仕事と委員所属箇所の仕事との間の関係について」(案)が検討された。

vii) 文献複写(産業会議の窓口を利用すること)について説明があつた。

viii) 予算報告があつた。

○ 上記の報告に対し、特に(vi)について討論があり、それに関連して、五十嵐氏より出張費などの扱いについて説明があり、また発表の時の委員会名の取扱いや、「委員会の仕事」ということの見え方などが討論された。

(2) データ・シートの整理

i) 整理作業報告(井出野氏)

12月18・19日に井出野、中島(豊)、五十嵐の三氏で行つた。

処理したシート数は350枚で、1.5日間一杯の時間を要した。今回からcomputer indexのチェックが加わつた。computer indexにauthorの2字が書き入れてなかつた人があり混乱が起つた。

1(イチ)、I(アイ)、/(スラッシュ)の記入にやはりまぎらわしいものがあり、たまたま0(ゼロ)とO(オー)の区別が明瞭でないものがある。continuationの場合にも必ず重複して書込む必要のある欄に注意すること。computer indexは、書直しの必要がある場合のために、必ず鉛筆で記入すること。

○ 次回の整理作業；

3月中・下旬

岡本(まとめ)、西村、五十嵐、中島(竜)、更田の五氏
前回の人の助言を受ける。

ii) Computer Index について(田中氏)

1時間半で今迄のデータをsort outした。

⁴ BeとBの例が呈示され、これについて意見が求められた。

収納した全てのデータについて sorting した結果は IBM Typed Out で厚さ約 4 cm 位になる。

これの配布あるいは発表をどうするかについて検討され、JAERI-Memoとして出す(リーダーへの feedback)のがよいと決つた。Computer Index について修正希望などあれば1月中に田中氏迄申し出ること。

(3) 計算関係

i) Non-local optical potential 関係はその後進展なし、(五十嵐氏)

ii) STAFとRACY(中村・八谷両氏)

解析の中間報告が資料を配布して行われた。

STAFについて残されている課題としてはパラメータ α に関する survey 計算と、障壁 B_{12} と $\bar{T}f$ 値との関連を調べることがある。

iii) 1.4 Mev neutron data の evaluation (神田氏)

$^{63}\text{Cu}(n, 2n)$, 1.0~2.0 Mev などの資料を呈示して説明があつた。

■ 文献分担の確認(浅見氏)

雑誌分担リスト(配布資料の転載)

(雑誌名)	(分担者)	(交代時点)
1. Ann.Phys.	八谷	
2. Arkiv.Fysik.	村田	
3. Atomnaya Energia	井出野	
4. Can.J.Phys.	若林	
5. Helv.Phys.Acta	大野	
6. J. Inorg.Nucl.Chem.	浅見	29, No.3 ('67)より
7. J. de Phys.	河原崎	
8. J. Phys.Soc.Jap.	岡本	22, No.5 ('67)より
9. Nucl.Phys.	田中, 菊地(士), 神田, 大久保	

ついでに要望書のことについて質問があり、原子炉側のセンターに対する要求などについて検討された。

- 来年度の当グループの計画は、センターの人員もまだ非常に不十分であることも関連して、大体、これまで通り進めることになった。
- 来年度計画中の計算プログラム関係
 - 以下は話題となつたものの列挙である。
 - i) Multi-level analysis
 - ii) Optical model + resonance
 - iii) ELIESE I でこれまで出来なかつた compound elastic を含むパラメータの automatic search をしたいという希望があり、五十嵐氏が手をつけているとのことであつた。さらに将来は、deuteron を含めた ELIESE II に発展させる必要があるであろう。
 - iv) STEVE にガンマーの競走過程を入れる。
 - v) 前に西村氏の提案した P-wave 以上を含み Doppler を含めた解析コード。
 - vi) COMFORD を利用するプログラム
 - vii) Non-local optical model
 - viii) CDC 3600, IBM 360 などのより大型の計算機に対処して ELIESE と STEVE をつなぐといつたことも考えていつたらよいと思われる。DWBA その他のコードも一つの control routine で呼び出して使うようなことも考えるべき方向であろう(プログラムの合成)。
- Evaluation, Systematics 関係で話題となつたこと。
 - i) $(n, 2n)$ の評価作業に STEVE I による評価で協力する
(八谷氏)
 - ii) RACY を使つて capture gamma-rays の evaluation を行いたい(八谷氏)
 - iii) Transmission coefficient T_{ll} の調査(五十嵐氏), 吉田氏達と行つているものである。
 - iv) ENDF/B のチェックえの参画。(炉定数グループの計画えの協力)

v) ^{238}U の inelastic の evaluation などである。

V その他

- これまでの委員会では事務的な話が多いが、具体的・内容的な話を詳しくやるようにし、学問的内容の討論がもつと行われるようにしたい

(浅見氏)

- 上記の意見に賛成であつて、このグループ自体として目的をしぼつた勉強会をかなり頻繁に行うようにしたい(五十嵐氏)。

例えば、炉定数の「FPの作業グループ」のようにサブ・グループの会合などをもつと行つてはどうか。

VI 次回

議長；中島(豊)氏，書記；浅見氏

日時；1月に浅見氏がアレンジする。

場所；東京本部

(以上)